



## 日本の木で窓をつくり、日本の森と、森の文化を守っていく。

「日本の窓」工場に使用した丸太、実は伐採時の原価は1本500円です。それを東京で買うと加工賃や中間マージンで一気に35,000円に跳ね上がってしまいます。一方、戦後の植林奨励で育った木は、いま伐採期を迎えているにもかかわらず、日本の木材自給率はわずか37.8%\*にすぎません。海外の木材のほうが安いから、木は山林に放置されたままになっているのです。このままだと森は生命連鎖の危機に陥ります。森の危機は人間の命にも深くかかわってきます。これが私たちが日本の木にこだわり続けるもうひとつの理由です。日本の木で窓をつくるのは私たちの使命であり、誇りでもあります。

\* 2019年林野庁「木材需給表」

1. 『蒼星の森』ゲストハウス。『蒼星の森』は世界自然遺産の白神山地に繋がる八甲田山麓の広大な二次林。ここを拠点に森林資源の保存と育成のための活動を展開しています。
2. 丸太にガラス張りの実験的建築は、2013年『蒼星の森』に建設。同じ手法で翌年十和田市の市街地に『蒼星の森』オフィスを建設、都市建築としての合理性を証明しました。
3. 私たちは二酸化炭素排出削減にいち早く取り組み、現在では八甲田山麓に9カ所のソーラー発電所を稼働させ、1日平均4,000世帯分の電力を供給しています。
4. 「日本の窓」工場では、発生する木材の切れ端やおがくずはすべて回収され、ペレットストーブの燃料、椎茸栽培の床などに生まれ変わります。木だからこそできる循環です。

